二〇二六年度

編入学試験　二年次・三年次

小論文問題

（創作表現専攻）

二〇二五年十一月二十九日（土）実施

注意事項

一　試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけない。

二　解答用紙には、受験番号および氏名を正しく記入すること。

三　試験中に問題文の誤字、脱字等に気づいた場合は、手をあげて試験監督者に知らせること。

四　問題用紙は試験終了後、持ち帰ること。

問題　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「アバター」という一見するとウェブ上の最も新しいキャラクター概念もその使われ方を追っていくと、その「私」や「内面」といった要素は近代小説にその出自を求めていくことが可能な気がしてきました。その問題をもう少し考えていく上で、近代的な表現におけるキャラクターの歴史を検証してみましょう。

キャラクターの中に「内面」があることをぼくたちは当然と思っているふしがありますが、しかしそれはこの国の私（わたくし）小説と密接ではないか。ぼくたちは自分の中に「気持ち」や「心」があることを疑いませんが、しかし、そもそもそれを確信できるのは、それを「書く」ことができるからです。

近代小説の歴史では、言文一致と私小説と自然主義を一体のものとして説明しますが、それは「私」の内面を自然科学的に観察して、それを話しことばによって表現することが新しい「文学」だと割と単純に考えられていたふしがあるからです。いつの時代もそうなのでしょうが、若者たちは自分たちに独占的な新しいことばを新しいメディアの中で表現したがります。メールの絵文字や2ちゃんねる語や「ＫＹ」語にi マユをひそめ、日本語の乱れをii ナゲく人々も、例えば五十代前後の女性なら「変体少女文字」と呼ばれた丸文字を産み出した人々だったりするわけです。そういう新しいことばとメディアと「私」の三者間の結びつきができあがったのが近代という時代だとさえいえます。

例えば以下の一文を読んで下さい。

あまり長き文にて、実に下手に御座候（ござさふら）へば、誰（た）れにも御見せ下さるまじく候やう、くれぐれも願ひ上げ候。何とぞ幾度も御たよりあらん事を願ひ上げ候。かしこ

七月一日夜　　澪子（みおこ）

御なつかしき

御兄上様御許（おもと）に

二白

私は日記を書き次第差上げます。姉さまもおしげさんも、明日物理と外国地理の試験がありますから、御返事を上げようと思ひましたが、試験の方が心配ですからやめまして、すみ次第必ず差上げると申して居りました。さよなら。

これをきつと誰にも見せてはいけませんよ。その為めにチヤンと書いてありますよ。

これはぼくがよく明治の村上春樹という言い方で言及する水野葉舟という作家の小説「ある女の手紙」の一節です。彼には『妹に送る手紙』（一九一二年）という不思議な本があって、これは兄と妹が文通する時に、手紙をどう書いたらいいかというハウツー本です。

先の引用に戻ると、この小説は三人の若い女の子が一人の「お兄さま」に一斉に手紙を送り、誰がお兄さまの関心を引くかを競い合う、というもので、三人の手紙が順に配列されます。三人の「妹」は「お兄さま」の「妹」ではなく、ただ一人の男性を「兄さま」とか「兄上様」と呼んでいるだけです。「お兄さま」はそのうち一人と肉体的な関係を結んでぐだぐだになっていくという展開ですが、三人の「妹」系にモテまくり、彼女たちのモノローグが延々つづき、そして最後はぐだぐだになっていくという流れなどは、そのまま現在のギャルゲーと同じ構成だよな、とぼくなどは思っています。

A この小説が面白いのは、三人は最初、「候文」で「兄さま」に手紙を書いているのに、そのうち一人が「言文一致」で書き出すと、私も私もと残り二人も続く、という部分です。引用したのは三人の中でも一番萌え度が高いと思われる澪子という女の子で、この澪子ちゃんを含む三人の女の子が「言文一致」の文章で「私をわかって下さいお兄さま」の手紙を送る、というのがこの小説です。

さて、注意してほしいのは「候文」から「言文一致」にスイッチした瞬間、そこに彼女たちの「私」が現れるという点です。引用した澪子ちゃんの手紙でも前半はかしこまっているけれど、言文一致に変わった瞬間、妹キャラ全開なのがわかると思います。彼女たちの「私」すなわち「キャラ」は「お兄さま」と「妹」という関係になって初めて成立するものです。それは、彼女たちが「言文一致の手紙」という虚構の中で、「妹」というアバター＝化身を演じているというイメージで受け止めると、この小説のニュアンスは伝わり易いと思います。ですから、「兄さま」の気持ちが三人のうち一人にあると「妹」たちが知ると、一人などは「言文一致」から「候文」にわざわざ文体をチェンジした上で他人ギョウギ[iii]の

手紙を送り付けて去っていきます。こういう形で、「言文一致」と「候文」の間を行き来することで手紙の書き手の「私」が現れたり消えたりするというのは、田山花袋の『蒲団』と同じ構成です。ヒロインの横山芳子は東京で師である作家の許にいる時は「私」を主語とする一人称の手紙を届けてきては師を翻弄し、しかし、田舎に帰された後は主語を欠いた「候文」の手紙を届けます。

このように明治期の「妹」たちは「東京」や、あるいは「兄-妹」という恋愛ゲームの中では「言文一致」に支えられた「私」としてふるまい、しかし、それはぼくから見ると、彼女たちの現実は近代以前の因襲や「家」制度の中にあり、束の間、ある種の仮想現実としての言文一致体の「手紙」の中でのみ「私」というアバターを演じることが可能であった、と感じられます。けれどもそれは「妹」たちに限ったことではなく、花袋や葉舟ら男の文学者たちも、「私小説」というバーチャルな世界で「私」というアバターに「内面」を語らせているに過ぎません。同じです。

しかし「私小説」がⅣヤッカイなのは、この「私」を私たちは本当の私と思い込んでしまうところです。ぼくは葉舟や花袋の「私」と、その小説の中に引用された「妹」たちや芳子たちの「私」の間に何ら差がないように思うのですが、前者の「私」の末裔たちが書いた小説は「文学」、「妹」たちの書いたものは「ライトノベルズ」と何となく今も区別されているのは、Bばかげていると思います。

そもそも、この「私」を一人称とする文章はいくらでも「アバターとしての私」を立ち上げることができます。ブログの中であなたたちが見せているつもりの「本当の私」も、反対に「2ちゃんねる」の「名無しさん」たち一人一人の当人は書き込みの過激さとは正反対の人であったりする事態も含め、Cウェブ上にあるのはどれも「アバターとしての私」「キャラクターとしての私」という現象のようにぼくには思えます。ウェブは「匿名」やハンドルネームからなる「アバターとしての私」があふれている場所ですが、ぼくにはそこであたかもこの国の近代文学がやり直されているように思えます。ぼくの印象では「近代」とは、「言文一致」という新しいツールで誰もが「私」について話し始めた時代なのです。今は「言文一致」がウェブというツールに取って替わられたのだといえます。

（大塚英志『キャラクターメーカー』による。なお、設問の都合上、原文を一部改変した箇所がある）

〔注〕＊2ちゃんねる……一九九九年に開設されたインターネット上の電子掲示板。二〇一七年、5ちゃんねるに改名。
＊KY語……日本語の文章を略して各単語の頭文字のローマ字・数字を組み合わせた略語群。
＊二白……手紙などで、本文のあとにさらに書き加えるときに、その冒頭に記す語。追伸。
＊ギャルゲー……女性キャラクターが登場することを売り物とするタイプのコンピュータゲームの俗称。

問一　傍線部i～ivのカタカナを漢字に直しなさい。

問二　傍線部A「この小説が面白いのは」とあるが、筆者は「この小説」のどこがどう「面白い」と言っているのか。その内容を過不足なく説明しなさい。字数制限はありません。

問三　傍線部B「ばかげている」とあるが、筆者は何がどう「ばかげている」と言っているのか。その内容を過不足なく説明しなさい。字数制限はありません。

問四　傍線部C「ウェブ上にあるのはどれも「アバターとしての私」「キャラクターとしての私」という現象のようにぼくには思えます」とあるが、こうした「現象」について、あなたはどう考えるか。考えるところを自由に論じなさい。字数制限はありません。

２０２６年度

編入学試験　２年次・３年次

小論文問題

（食創造科学科）

２０２５年１１月２９日（土）実施

注意事項

１　試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけない。

２　解答用紙には、受験番号および氏名を正しく記入すること。

３　試験中に問題文の誤字、脱字等に気づいた場合は、手をあげて試験監督者に知らせること。

４　問題用紙は試験終了後、持ち帰ること。

Ⅰ　以下の文を読み、問いに答えよ。

我が国では、健康食品やサプリメントといった用語以外にも、栄養補助食品、健康補助食品、機能性食品、保健機能食品、特定保健用食品、栄養機能食品、特別用途食品など、様々な名称の食品があるが、いわゆる健康食品とは、行政的な言い方であり、国が保健効果や健康効果などの表示を許可していない製品（一般食品）をさしている。

問1　健康食品やサプリメントが医薬品と混同されることのないようにするにはどのような対策をすれば良いと考えるか。200～300字で述べよ。

問2　健康食品に関連した健康被害が起きる要因としてはどのようなことが考えられるか、例示してその解決法を700～800字で述べよ。

出典：厚生労働省『健康食品による健康被害の未然防止と拡大防止に向けて』より、設問に合わせて一部改変

https://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/dl/pamph_healthfood.pdf

２０２６年度

編入学試験　２年次・３年次

小論文問題

（ランゲージ専攻）

２０２５年１１月２９日（土）実施

注意事項

１　試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけない。

２　解答用紙には、受験番号および氏名を正しく記入すること。

３　試験中に問題文の誤字、脱字等に気づいた場合は、手をあげて試験監督者に知らせること。

４　問題用紙は試験終了後、持ち帰ること。

設問の後にある文章を読み、問いに答えなさい。

問１　「グローバル人財」は、著者独自の意味合いが込められた用語である。可能な限り文章中の表現を用い、著者による「グローバル人財」に関する説明を、著者が書いている順で、１、２、３のような番号を先頭に付け、１つずつ、箇条書きで書きなさい。全体で、360字以内とする。

問２　日本社会において、通常、使用されている「グローバル人材」について、3つ以上の観点を設定して、自分の言葉で説明しなさい。全体で、600字以内とする。

問３　著者が書いている「グローバル人財」と自分が考える「グローバル人材」を比較検討する考察を、自分の言葉で書きなさい。全体で、400字以内とする。

問題文

「平成バブル」とは、人によって考え方が違うようですが、おおむね一九八六年から一九九〇年初頭まで続いた日本株の急騰局面のことを指します。この時、騰(あ)がったのは株式だけではなく、我が国の不動産も急騰しました。

「きっと未来もずっとこの繁栄は続いて行くはず」

そう誰しもが想っていたあの頃の私たち日本人（学生である読者の皆さんは当時、生まれていませんでしたが）。しかしそれは全くの幻想であり、ある日突然「バブル」は終わったのでした。

今回も全く同じであり、一体何がどうなるのか、あらかじめ決め打ちで考え、動くことは危険です。企業経営者としてはあの時と同じように、ある日突然、「日本バブルの終わり」が来ても直ちに対応出来るように、備えを万全にしておかなければなりません。

また今後のことを考えれば、国内と海外の間でマネーが動くこと（＝グローバル・マクロ）を的確につかみ、どちらにどれだけの力を企業として配分して行くべきなのかを自ら考え、自分で前に進んでいく人財を、未来の社内リーダーとして一刻も早く育てていくべきです。

これらが正に私の言う「グローバル人財」であることは言うまでもありません。そして米欧があれやこれやと創りこみ、流布してきた「コンセプト」から覚醒し、自分で考え、自分で動くことが出来るのが、この意味での本当の「グローバル人財」なのです。これを我が国企業は今後、ますます必要としてくるはずです。

したがって、学生である読者にとっては、やはりここでいう「グローバル人財」となることこそが、我が国企業のニーズとマッチすることだということになってきます。そしてそれは、何も高い授業料を払って米欧の有名ビジネス・スクールで学ぶ必要のないものであるということは、第四章の「実践編」で書いてきたとおりです。なぜなら、こうしたビジネス・スクールで学ぶことは、正にこれから米欧自身が捨て去ろうとしている「コンセプト」（中略）なのであって、それはもはや時代遅れなものだからです。

原田武夫　（2013）　『決定版・ニッポンのグローバル人財教本：現場で教える３３のポイント』
より抜粋

２０２６年度

編入学試験　２年次・３年次

専門科目試験問題

（ビジネス学科）

２０２５年１１月２９日（土）実施

注意事項

１　試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけない。

２　解答用紙には、受験番号および氏名を正しく記入すること。

３　試験中に問題文の誤字、脱字等に気づいた場合は、手をあげて試験監督者に知らせること。

４　問題用紙は試験終了後、持ち帰ること。

1 下記の設問より一つを選択し、600 字以内で解答しなさい。解答欄には選択した問題記号を記入すること。

A. 企業が多角化戦略を採用する動機・目的と、その代表的な類型について、具体的事例を交えて論じなさい。

B. わが国では、損益計算書において５つの利益を表示するルールとなっている。５つの利益について、その特徴をそれぞれ説明しなさい。

2 ビジネスに関連する以下の単語について、①・②は日本語に、③・④・⑤は英語に直しなさい。

① GDP

② diversity

③ 関税

④ 投資

⑤ 生産性